

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	コロコ琉球教室 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年2月25日		～ 2025年3月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年2月26日		～ 2025年3月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学年や年齢によらず、身体能力や認知能力などの発達段階を正しくアセスメントし、スモールステップで確実にステップアップする支援を行っている。	発達の四段階評価表に基づいた支援を職員全員が理解して実施している。	新入職員に対しても研修を行い、できるだけ早期に経年職員と同様の理解度で支援に当たれるよう努める。
2	保護者の想いや家庭環境を詳細に把握し、保護者が療育の主体となれるよう支援している。	利用児童保護者全員に対し、隔週で面接を行いカウンセリングとコンサルティングを行っている。新規入会者には療育の基礎を学んでいただく講座を全10回で実施している。	必要な場合には家庭支援を行っているが、拡充を図りたい。
3	活動内容、職員を固定化せず、常に児童が意識レベルを高く保てる活動を行っている。	デイリープログラムは児童の状態に合わせて毎回変更している。畑作業、登山、ロングハイク、製作など多岐にわたる活動を行っている。	兄弟児や他の園との合同療育行事を企画したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との交流の場が少ない。	強度行動障害児、専門的知識のない地域住民との活動がまだ難しい発達段階にある児童が多いため。	戸外歩行時に地域住民への挨拶を欠かさず、当教室の療育内容とその意義をご理解いただくよう努める。
2	安全計画が煩雑で保護者への周知ができていない。	療育内容の説明に多くの時間が必要で、安全計画の周知まで時間を多く割けていない。	おたよりやHPなどで周知を図る。
3	父母会の活動が少ない。	コロナ流行期間を経て、保護者同士の交流の場、交流の習慣が減った。	コロナ流行以前に行っていた保護者講座や座談会、親子行事を増やしていく。